

江戸の大かまど出土



発掘された石組みかまどの跡

久留米市は24日、同市善導寺町の国指定重要文化財・善導寺の大庫裏(台所)跡から、江戸時代初期などの石組みかまどや建物の一部、井戸などが出土したと発表した。市文化財保護課は「特に注目されるのはかまど。寺院のかまどの変遷がわかる貴重な資料」としている。

かまどは、大庫裏が再建された1625年ごろの2基を含め、計12基以上。一度に100人分の料理ができる大釜や大鍋が使われていたとみられ、釜や鍋をかける部分の直径は約1メートルと大きい。直径約70センチの五つが並ぶかまどの列(時期不明)も発掘された。

■ 善導寺台所跡 ■

100人分調理可能

このほか、大庫裏再建前にあった建物の一部や井戸も見つかった。同寺では昨年5月にも、1749年から明治中ごろまで使われていたとみられる石組みかまどが発掘されている。

同寺では2003年10月から、

27日に現地説明会

大庫裏など7棟の保存・修理事業を実施。大庫裏の解体が終了した今年6月中旬から地下遺構の発掘調査を始めていた。27日午前11時から約1時間、現地で説明会が開かれる。問い合わせは市文化財保護課(0942・309225)へ。

再 柳 健七 市上 性七 いて 議決 否決 集ま 現を 是午 夕たは 夕たは

の 館 間 部 ル 11